

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成 25 年 8 月 29 日 (2013.8.29)

【公開番号】特開 2012-40050 (P2012-40050A)
 【公開日】平成 24 年 3 月 1 日 (2012.3.1)
 【年通号数】公開・登録公報 2012-009
 【出願番号】特願 2010-181172 (P2010-181172)
 【国際特許分類】

A 6 1 M 29/02 (2006.01)

A 6 1 L 31/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 M 29/02

A 6 1 L 31/00 Z

【手続補正書】
 【提出日】平成 25 年 7 月 11 日 (2013.7.11)

【手続補正 1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

生体の管腔内に留置される半径方向に拡張可能な筒形状であって、円筒仮想表面に形成された主ステント要素から成り、このステント要素はニッケルまたはニッケル／コバルト合金より高い疲労強度を有する合金から作製されたことを特徴とするステント。

【請求項 2】

前記ステント要素の疲労強度は、前記ニッケルまたはニッケル／コバルト合金の 1.5 倍以上の強度を有する合金である請求項 1 に記載のステント。

【請求項 3】

前記ステント要素は、金、銀、銅、ニッケル、コバルト、パラジウム - ムのいずれかを含む電鍍合金である請求項 1 または請求項 2 に記載のステント。

【請求項 4】

前記ステント要素は、硫酸塩、塩化物、アンモニア錯塩、シアン錯塩、スルファミン塩、次亜リン酸塩、ピロリン酸塩、酒石酸塩、EDTA のいずれかの化合物を添加して、金、銀、銅、ニッケル、コバルト、パラジウム - ムのいずれかを含む合金を用いて電鍍で作製されている請求項 3 に記載のステント。

【請求項 5】

前記ステント要素は、金を主構成成分とし、銀、銅、ニッケル、コバルト、パラジウムから選ばれた少なくとも 1 つ以上の合金を用いて、電鍍で作製されている請求項 3 または請求項 4 に記載のステント。

【請求項 6】

前記ステント要素は、パラジウム - ムを主構成成分とし、金、銀、銅、ニッケル、コバルトから選ばれた少なくとも 1 つ以上の合金を用いて、電鍍で作製されている請求項 3 または請求項 4 に記載のステント。

【請求項 7】

前記ステント要素は、筒形状に形成するための接合部を有している請求項 1 ないし請求項 6 のいずれか 1 項に記載のステント。

【請求項 8】

前記ステント要素は、前記接合部が電着により接合される請求項 7 に記載のステント。

【請求項 9】

前記ステント要素は、複数のセルとこのセル同士を連結する連結部からなり、セルの線径が $10 \sim 50 \mu\text{m}$ 、連結部の線径が $5 \sim 20 \mu\text{m}$ である請求項 1 ないし請求項 8 のいずれか 1 項に記載のステント。

【手続補正 2】

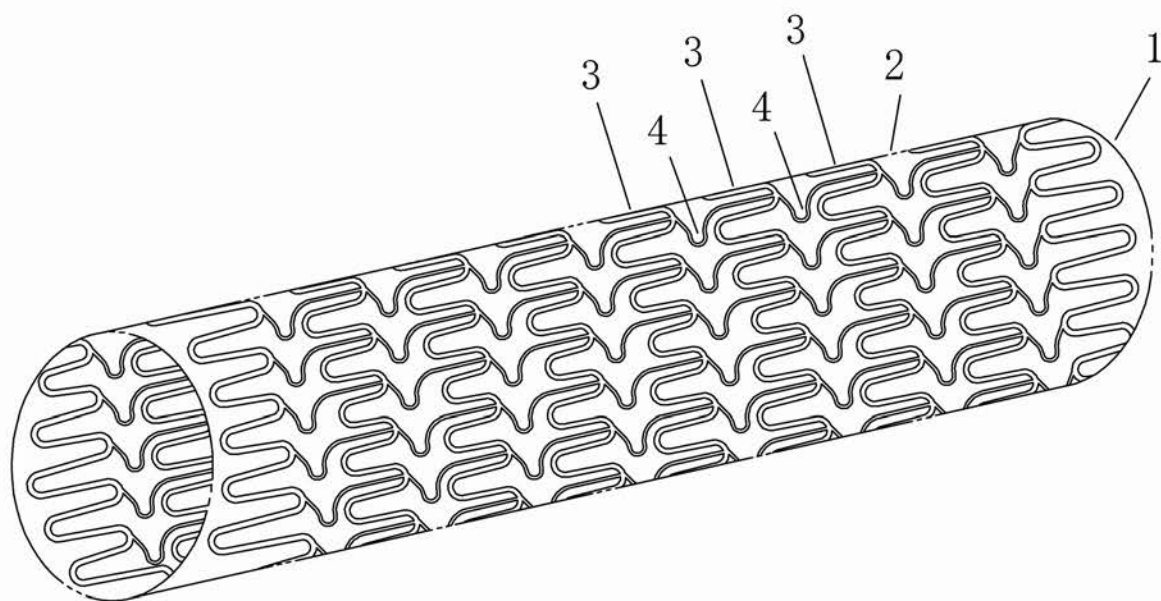
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】全図

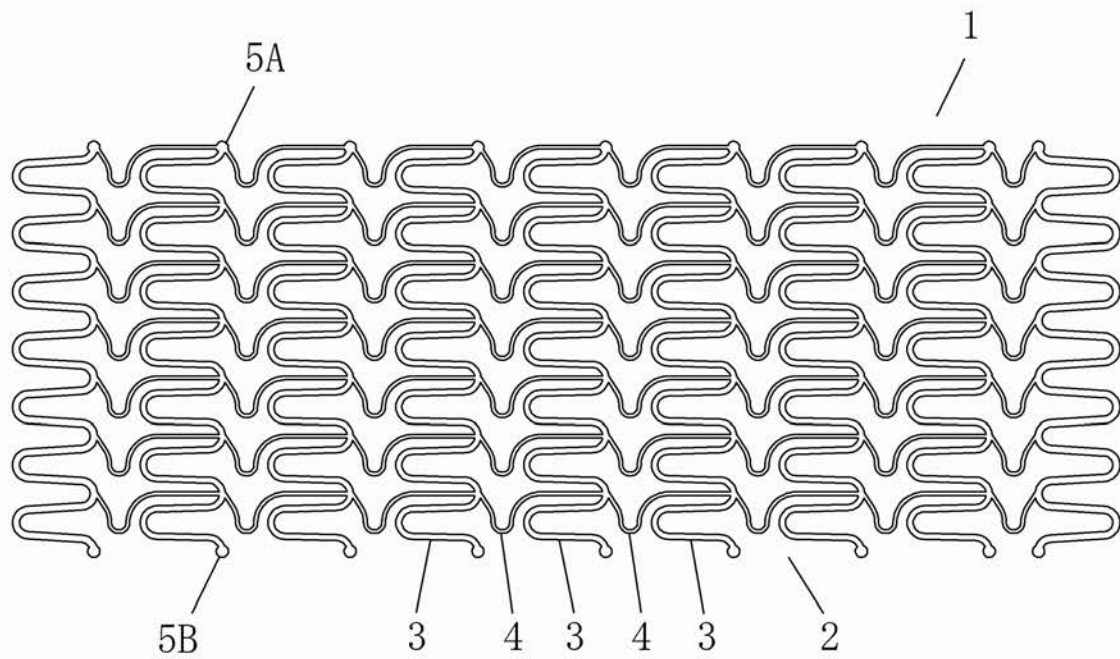
【補正方法】変更

【補正の内容】

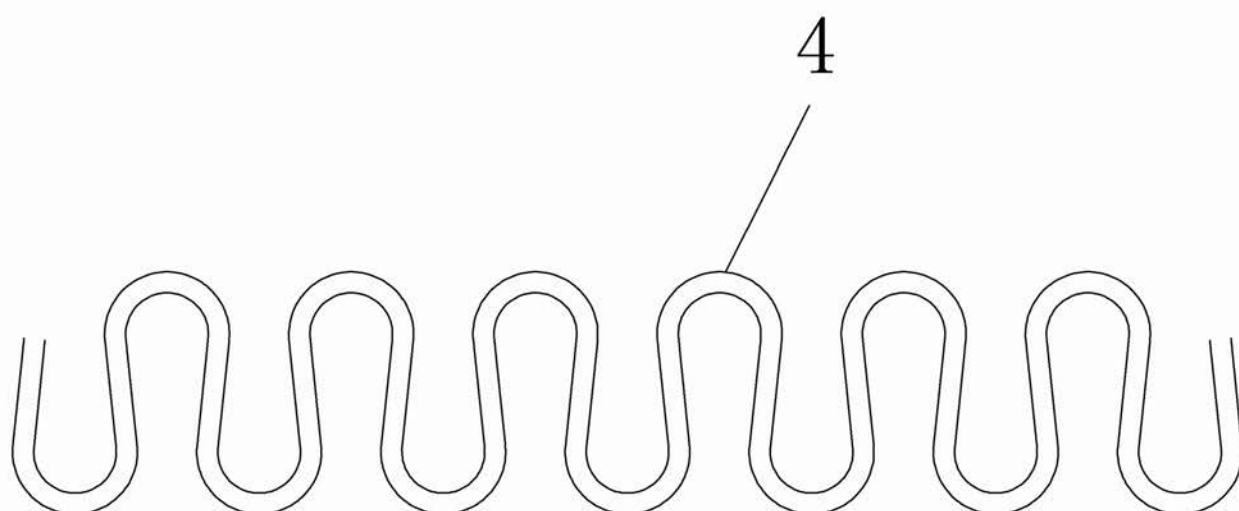
【 図 1 】



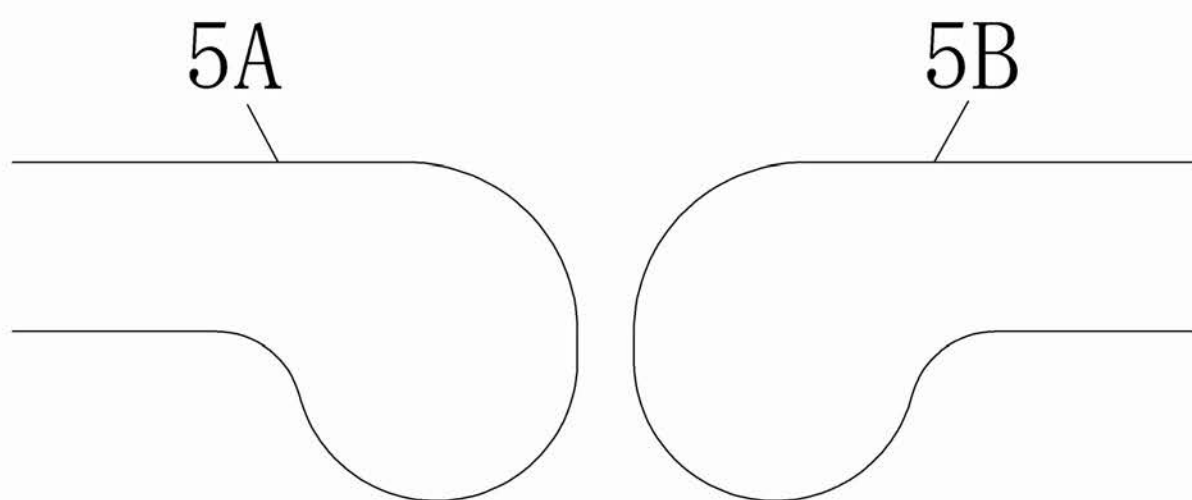
【 図 2 】



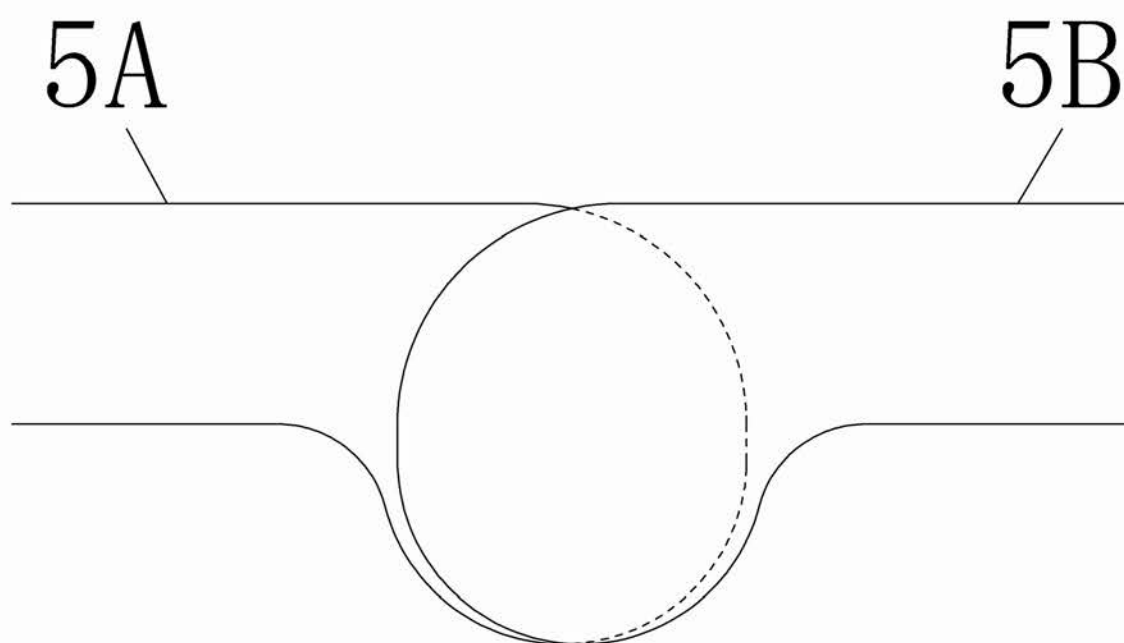
【図 3】



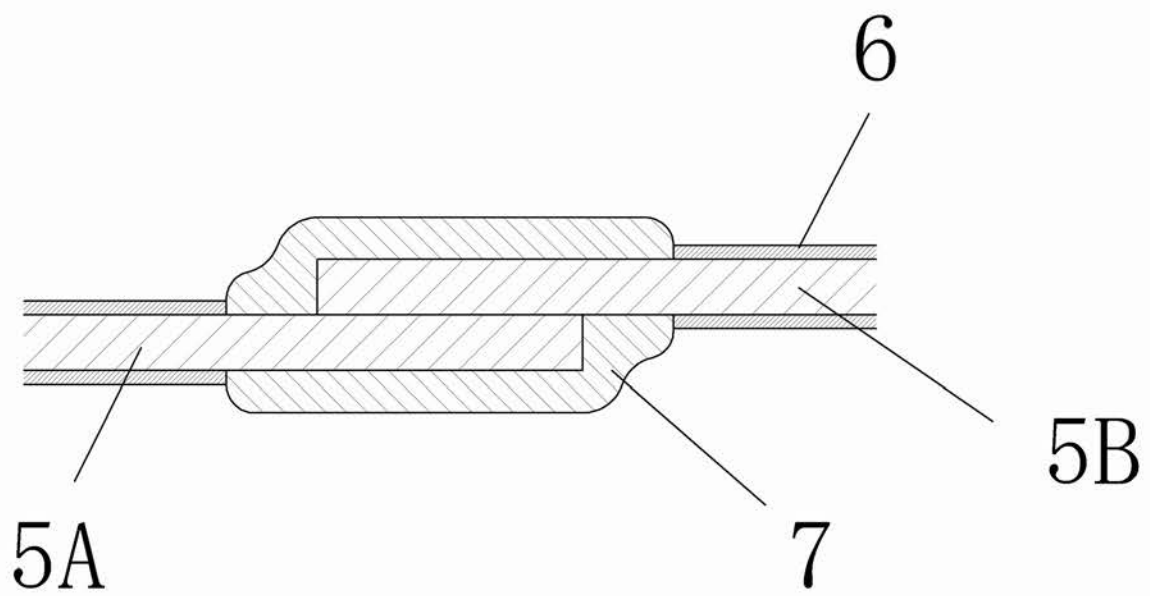
【図 4 A】



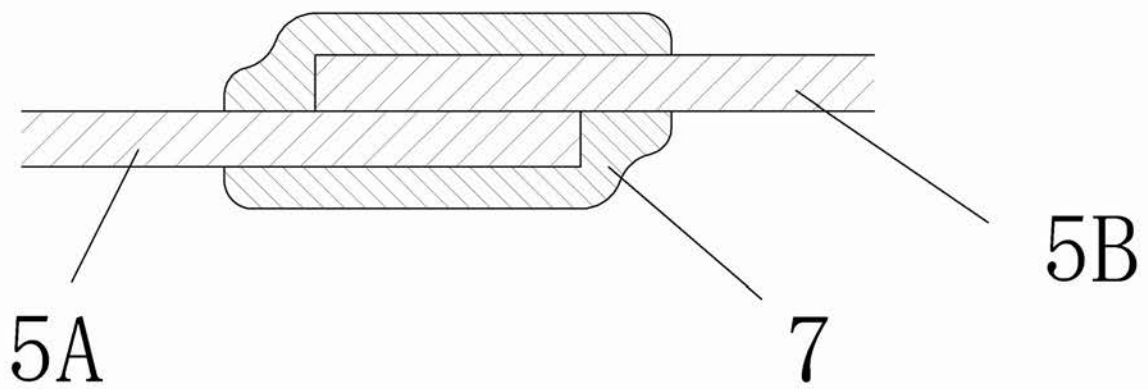
【図 4 B】



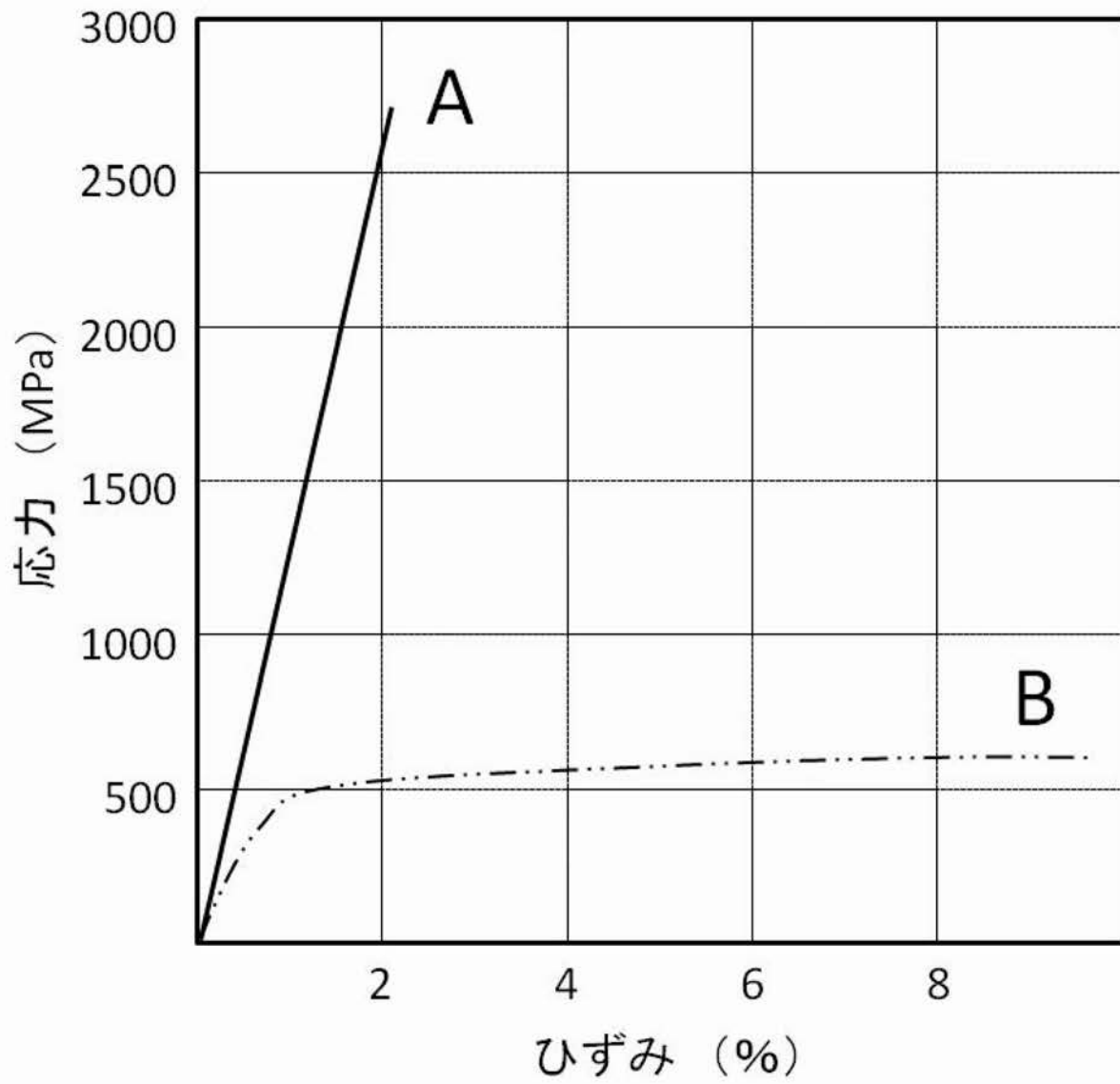
【図 4 C】



【図 4 D】



【図 5】



【 図 6 】

